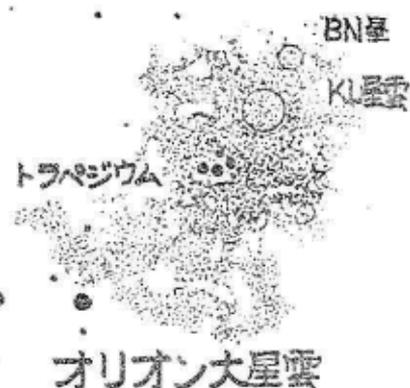




中心には、生まれてから1万年しかたっていないとても若い4つの星が四辺形を作っています。これはトラペジウムと呼ばれています。このオリオン星雲では、トラペジウムよりさらに若い、生まれたての星も発見されています。生まれたばかりの星は厚いチリにおおわれているため、普通の望遠鏡では見えません。しかし、星の光であたためられたチリから赤外線が出るため、赤外線望遠鏡では観測できます。1965年、オリオン星雲を調べていたベックリンとノイゲバウアは700kという大変温度の低い天体を発見しました。そして詳しく調べた結果この天体は生まれたばかりの星で、本当は2万k以上あるが、まわりを厚いチリでおおわれているため、700kと観測されたことがわかりました。この星は発見者2人の名前の頭文字をとってBN星と呼ばれています。赤外線望遠鏡の性能向上によって1980年、BN星の付近には、BN星も含めて同じような星が9個あることがわかりました。オリオン星雲では星が集団で生まれているわけですから、この誕生の秘密を解き明かすべく、多くの研究者の目が今も、オリオン大星雲に向けられています。(注.0℃=273°K) (H.Y)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764)91-2123(代表)